

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2018年4月23日 (月)
 NO. 852号 本号3頁

安倍9条改憲NO！森友・加計疑惑徹底追及！

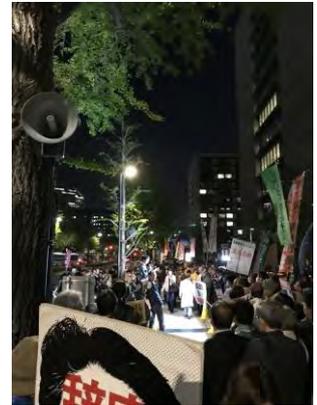
安倍内閣退陣！ 4・19国会議員会館前行動

安倍内閣の退陣、憲法9条改憲阻止、森友・加計疑惑の徹底追及を求める行動が、19日、国会議員会館前で行われました。「戦争させない・9条を壊すな！」総がかり行動実行委員会と「安倍9条改憲NO!」全国市民アクション実行委員会が主催。「大うそつき、恥を知れ安倍政権」「安倍内閣退陣」等のプラカードを持った3000人が集まり、力強く声をあげました。

総がかり行動実行委員会の高田健共同代表は主催者あいさつで、「32回目の19日行動です。私たちはすさまじい怒りに燃えています。安倍内閣を倒すまで、たたかいを続けましょう」と力を込めました。

立憲民主党へ移ったばかりの杉尾秀哉参院議員、社民党の福島瑞穂副党首、共産党の山下芳生副委員長が参加。共産党の山下氏は「この国の民主主義を取り戻すために、今ほど野党と市民の結束したたたかいが大事な局面はありません。必ず安倍政権を退陣させるまで、ご一緒にたたかきましょう」と訴えました。

その後、憲法学習者の小沢隆一氏、婦団連の柴田真佐子氏らがスピーチ。柴田氏は、財務省前で緊急に行った財務省福田淳一事務次官による女性記者へのセクハラ発言で、同氏の罷免、麻生財務大臣の辞職を求める行動を報告し、「セクハラを許さず、誰の人権も守られる社会を実現させよう」と訴えました。



支持率下落でも憲法改正目指すと、自民憲法改正推進本部長

内閣支持率が下落している中、自民党憲法改正推進本部の細田本部長は日本記者クラブで会見し、政治情勢にかかわらず憲法改正を目指す考えを強調し、各党に協議を呼びかけました。

この中で細田本部長は「憲法改正の実現可能性は政権の支持率や議席数と深い関係があるが、必要なことはいつでも提起し、国会で議論されるのが正しい民主主義だ。議席数や政権の人気の多寡に影響されてはならないという信念で、各党に働きかけている」と述べ、政治情勢にかかわらず憲法改正を目指す考えを強調しました。

そして、「公明党は憲法改正の前提として国民投票法を改正しようと言っているが、協議はやぶさかではない。『ほかの党も、どうぞ何でもおっしゃってください』という立場だ。各党との憲法審査会での協議を早期に開始したい」と述べ、各党に協議を呼びかけました。

自民党は、財務省公文書改ざん、自衛隊の「日報」隠ぺいなどで、安倍内閣の支持率が下がっても、改憲に突き進もうとしています。自民党、安倍首相は自ら改憲を断念することはありません。私たちが3000万人署名を成功させて、改憲発議できない世論をつくり出し、断念させるしかありません。3000万人署名を成功させましょう。

各団体の3000万人署名のとりくみ

全教・広島 3000万署名「ラストスパート行動」

憲法 3000 万署名運動の節目となる 5 月 3 日まであと 1 ヶ月となり、全教広島では憲法共同センターが提起した「ラストスパート行動」に取り組んでいます。

4 月 11 日には、県内 10 ヶ所で高校生を対象とした一斉早朝宣伝を行いました。全教広島からは、広島駅前の宣伝に 19 人が参加。学校へ向かう高校生に、子ども全国センターが作成した憲法リーフ入りのティッシュを配布し、署名を呼びかけました。高校生が署名に集まる場面もあり、約 1 時間の行動で、用意したティッシュ 500 個をほぼ配り切り、署名は 33 筆集まりました。「よくわからない」という高校生も「戦争しないための署名だよ」と話すと、「戦争は嫌です」と署名に応じていました。

全教広島では、今後も職場や街頭で 3000 万署名にとりくみ、運動を前進させながら 5 月 3 日を迎えようと呼びかけています。 「新聞 全教」より

民医連・東京 健和会看護部に民医連以外の病院二ヶ所から署名届く！

東京・健和会看護部では、地域の病院訪問や足立区の看護&介護就職フェアのとりくみなどを生かして、足立区内の看護管理者の皆さんに 3000 万人署名のお願いをしています。すでに民医連以外の病院二ヶ所から返信されてきました。

水野記念病院からは 111 筆も届き、葛西英子看護部長と嬉しい悲鳴を上げました。署名を持参した看護部長には「あまり集まらなくてごめんなさい！」と言われましたが、私たちの看護部でもこんなに集められないのでびっくり。「どんなふうを集められたのですか？」と聞くと、「もしも戦争が始まったら嫌でしょ！愛する人を戦争で失うのよ！私たちも従軍看護師で戦地に駆り出されるのよ！戦争反対の人はみんな書いて！」と部長室に来たナースに訴えたり、病棟でお願いしてくれたそうです。本当に頭の下がる思いでした。

もうひとつの病院からも 49 筆寄せられました。

今まで築いてきた信頼関係の中での依頼は強いなと感じています。今後もさまざまなつながりを生かして署名を集めたいと思っています。 (星野陽子、看護師)「民医連新聞」より

新婦人の会 長野と岩手の憲法カフェ 「新婦人しんぶん」より

長野・篠ノ井支部 「憲法とくらしカフェ」で憲法 13 条を語り合う

「憲法とくらしカフェ」を開きました。憲法 13 条が紹介され、「だれもが自由に幸福を求めて生きる権利がある。このことが保障されるには平和でなくてはならない。そのために 9 条が必要」と学びました。

そして、普段当たり前のようにやっている、子どもを育てたり、おしゃべりしたり、趣味を楽しんだりというの、憲法があつてこそと、気づくことができました。その後、お茶を飲みながらフリートーク。一人ひとりが大切にされ認められる、憲法の理念にかなった世の中にしたいと、思いを一つにしました。

岩手・久慈支部 20 人参加した憲法カフェで話を聞いて改憲が身近に

ゲストも含め 20 人参加した憲法カフェ。憲法は権力者の暴走を阻止するためのものであることや、自衛隊加憲は軍拡競争につながり福祉や教育にしわ寄せがくることになるだろうなど、話を聞いて憲法改悪がぐっと身近に感じられました。

「署名に若い人がなかなか反応しない」との意見に、「まさか戦争なんて起こらないと思っているのだろう」「親から戦争の話聞いたことのある私たち世代との違いかも」など話し合い、3000 万署名の目標達成に向け、さらに頑張ろうと確かめ合いました。

全生連 西神戸生活と健康を守る会が他の団体と共に署名活動

西神戸生活と健康を守る会は4月7日に「安倍9条改憲NO! 3000万署名・須磨」の賛同団体の一員として、須磨区の公園で署名活動に参加しました。神戸市の「花まつり」と重なり、にぎやかな行動に。風船でアニメキャラクターや犬などをつくると子どもたちは喜んで受け取り、署名の訴えの力になりました。

参加は他の団体と合わせて30人で39筆の署名が集まり、27日に開催する講演会「香山リカ『私の憲法9条』」のビラを配布しました。「香山さん知っているよ」と受け取り、署名もしてくれました。
(繁野愛子通信員) 「生活と健康を守る新聞」より

平和委員会・青森 「ピースアピール」行動が15周年

青森県平和委員会が2003年から続けている「ピースアピール」行動が3月、15周年を迎えました。ピースアピールは、プラカードを持ってただ立っているだけの行動で、米国の平和団体が2001年の9・11同時多発テロ事件以降に行っていたものを参考にしたものです。2003年3月の最初のアピールは「イラク戦争反対」でした。当初は毎週、途中から隔週で、雨の日も雪の日もアピールを続けてきました。



写真は14年目の行動の様子

15周年となった3月21日の行動には12人が参加し、「安倍9条改憲反対」「戦争マイネ(ダメ)・平和が一番」などと書かれたプラカードを掲げてアピールしました。「平和新聞」より

革新懇・山形 西置賜革新懇と鶴岡田川革新懇のとりくみ

西置賜革新懇 3月10日、全会員と革新懇ニュース読者に「全会員が安倍9条改憲NO! 3000万署名に取り組みを」のアピールを届けました。届け先は3団体、個人約100人。

これまで、会員の方が500人分、50人分、20人分集めるなどして、合計1000人超の署名が寄せられています。しかし、取り組んでいる会員はまだ20人ほどでした。アピールに応え、さっそく会員が5人分、10人分と集め始めています。(今泉義憲)

鶴岡田川革新懇 2月24日、学習講演会「ドイツと日本の憲法を語る」を開きました。ドイツ滞在ジャーナリストだった森国一郎さんは、ワイマール憲法下で独裁が生まれた教訓から「人間の尊厳は不可侵である。これを尊重し、および保護することは、全ての国家権力の義務である」と定めた、ボン基本法を紹介。工藤博司元生活協同組合協立社常務理事は、安倍改憲を批判しました。

(菅井巖)「全国革新懇ニュース」より

全国借地借家人組合連合会 「やさしい憲法学習会」開催、多摩借組

東京多摩借組は、第6回目の「やさしい憲法学習会」を3月24日午後、立川市柴崎会館で組合員15人が参加して開催しました。

三多摩法律事務所の植木和則弁護士より9条改憲と国民投票法の問題点について、安倍政権がなぜ9条を変えたいのか、自民党の改憲案のたたき台について、加憲の狙い等が説明され、9条加憲によって、9条2項の「戦力不保持」が死文化し、自衛隊に課せられた様々な制約が解放され、将来的には徴兵制も可能になると警鐘しました。危険な改憲の発議をさせないために、3000万人署名を成功させようとの訴えがありました。

講演後、自衛隊と憲法との位置づけ、国民投票法と改憲反対の運動等、活発な質疑応答が行われました。「全国借地借家人新聞」より